

# 子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

## 論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Sleep quality and temperament in association with autism spectrum disorder among infants in Japan

和文タイトル:

乳児の睡眠・気質と自閉症スペクトラム障害の関連

ユニットセンター(UC)等名:福岡ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:九州大学サブユニットセンター

発表雑誌名:Communications Medicine

年:2023 DOI:10.1038/s43856-023-00314-9

筆頭著者名:菊地 君与

所属 UC 名:福岡ユニットセンター(九州大学)

目的:

本研究では、生後1か月の睡眠または気質が、3歳時の自閉症スペクトラム障害と関連しているかについて検討することを目的とした。

方法:

母親と乳児 69,751 組のデータを用いて縦断的研究を実施した。生後1ヶ月時の睡眠の質と気質について、保護者からの回答で把握した。3歳までの自閉症スペクトラム障害については、その診断を受けたことがあるかどうかについて保護者から回答を得た。これらの関連について、交絡因子で調整し、ロジスティック回帰で分析した。

結果:

夜間に比べ日中の睡眠時間が長い子どもは、日中の睡眠時間が短い子どもに比べて、3歳までの自閉症スペクトラム障害の診断を受けたリスクが高かった(リスク比[RR]:1.33、95%信頼区間[CI]:1.01-1.75)。激しい泣きが観察された子どもは、そうでない子どもに比べて自閉症スペクトラム障害の診断を受けたリスクが高かった(RR:1.31、95%CI:1.00-1.72)。子どもの機嫌の悪さと自閉症スペクトラム障害の診断との関連には性差があり、女兒では男児に比べて、機嫌の悪さがより自閉症スペクトラム障害と関連することが示唆された(RR:3.59、95%CI:1.91-6.75)。

考察(研究の限界を含める):

本研究は、生後1ヶ月時の睡眠の質と気質が自閉症スペクトラム障害と関連する可能性を示唆しており、保護者が観察できる行動により早期介入が可能である可能性を示している。ただし、本研究には次の限界がある。第一に、睡眠の評価は保護者の報告に基づいていること、第二に自閉症スペクトラム障害の診断の有無は保護者の自己申告に基づいていること、第三に、本研究は子どもの気質に関するすべての特徴を網羅しているとはいえことが挙げられる。

結論:

本研究の結果、子どもの1ヶ月時の睡眠や気質は、3歳時での自閉症スペクトラム障害と関連があることが示唆された。